

研究課題名	各種脱血モニタリングの比較評価
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 臨床工学技術課 氏名 島崎雅史
研究期間	臨床研究倫理審査委員会承認後～2026年5月
研究の意義・目的	血液浄化において血流量は透析効率において最も重要な要因の一つとされている。脱血不良などにより設定血流量が得られない場合、生命予後にも影響を及ぼす。従来、脱血の状態の把握は血液回路のピローの膨らみや血液回路の振動などからの経験的確認を行っている。 当院は多人数透析液供給装置（セントラル）への移行に伴いピローレス回路（PL回路）へ変更となり、PL回路に移行後の脱血の評価は日機装透析装置DCN-200Siへ搭載されているBVplusによるレーザードップラー血流量（LDQb）、推定血流量（EQb）で行っている。しかしながら、回路設置部位や光の加減によりその値にばらつきがみられ、脱血の状態評価が不明確なままているのが現状である。今回、BVplusと測定原理の異なるニプロ社製超音波血流計HD03、脱血圧を測定するエアレスモニターを試供で使用する機会を得たので、各種脱血モニタリングで得られたデータの比較を行い、脱血評価を図る。
研究の方法 (対象期間含む)	期間は臨床研究倫理審査委員会承認後～2026年5月。 方法は外来患者対象とし、血液回路に補助回路エアレスモニターを取り付けHD03のセンサーを回路に挟み脱血圧、実血流量（RQb）を非侵襲的に測定し、LDQb、EQbなどと比較検討行う。
①試料・情報の利用 目的および利用方法 ②利用し、又は提供する 試料・情報の項目 ③試料・情報の取得 の方法 ④利用する者の範囲 ⑤試料・情報の管理 について責任を有する 者の氏名又は名称	①研究対象者には研究用Noを割り振り、氏名と研究用Noの対応表を作成する。元データからは、氏名を削除し、研究に用いる。研究期間を通して対応表ファイルはパスワードをかけ、情報共有フォルダにあるパスワードロックのかかるスタンドアローンのパソコンで厳重に保管する。 研究終了後は5年の保存期間を経過後速やかに廃棄する。 ② 1) 患者基本情報(年齢、性別、CKD/DMの既往) 2) デモ機圧力、実血流量測定機の数値を患者毎に保存 3) 透析記録内の、レーザードップラー血流量（LDQB）、推定血流量（EQB）の値を各患者毎に保存。 ③治療時リアルタイムモニタ情報を取得。 ④研究責任者 ⑤武蔵野赤十字病院 臨床工学技術課 島崎 雅史および 武蔵野赤十字病院 院長 黒崎 雅之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 臨床工学技術課 氏名 島崎 雅史 TEL：0422-32-3111（代表）6771（事務局内線） FAX：0422-32-3525